

令和 7 年度神栖市地域医療体制に係る意見交換会 サマリー

- 1 日時・場所 令和 7 年 6 月 4 日（水） 19：00～20：20
神栖市役所 3 階 301 会議室
- 2 出席者 42 人 ※別添名簿のとおり
(医療関係者 19 人、消防 2 人、随行者 8 人、神栖市 13 人)

3 会議結果

石田進神栖市長と茨城県立中央病院永井秀雄名誉院長の挨拶の後、事務局から出席者を紹介。以降、永井名誉院長が座長として議事を進行。事務局からの報告について、事項 1 を藤枝医療対策監、事項 2 を長寿介護課の嶋林課長補佐が説明。その後、意見交換を行った。

(1) 報告

ア 事項 1：市内の医療の現状と取組状況について（説明者／藤枝医療対策監）

項 目	内 容
データから見る医療情勢	○神栖市は合計特殊出生率が県内 1 位。 ○鹿嶋ハートクリニックの病院化により病院数増。 ○診療所の継承や新規開設がなければ、2040 年に診療所数が 61% に減少する見込み。 ○市内の人口 10 万人当たりの医師数は増加傾向。 ○令和 6 年度、鹿行地域の派遣要望に対してはゼロ回答。 ○医療圏毎の県修学生医師の配置状況を共有。偏在是正が課題。 ○市修学生について、今年度は 4 名に新規貸与開始。 ○神栖市患者推計データを更新。 (入院) 高齢者の増加により、将来延べ患者数は増加見込み。 市内収容割合は前回分析より低下。 (外来) 全国は減少傾向でも、神栖市では横ばい。 ○救急医療選定療養費の県内徴収率は全搬送の 4.2%。 ○旭中央病院の救急車受入制限が頻発（月の約 2/3）。市内での 2 次救急の受入体制強化が課題
医療政策の主な取組内容について	○白十字総合病院では、地域包括医療病棟の開設準備中。鹿嶋ハートクリニックでは、令和 6 年 5 月から循環器ホットラインの 24 時間 365 日受入体制スタート ○合同進学・就職相談会で神栖市歯科医師会との連携を準備。 ○昨年度、外国人患者受入推進検討分科会を 2 回開催。今年度は研

	修会を開催予定。 ○在宅医療・救急医療連携に関する厚労省委託事業における、ACPと救急隊の連携等の検討に神栖市が参加。 ○小児救急体制の見直しから1年を経て、関係機関へのアンケート調査を実施。令和7年5月には意見交換会を開催。 ○市制施行20周年記念として、医療教育を実施。永井先生による講義と、医療機関での体験学習ツアーを実施。 ○包括連携により「きらっせプロジェクト特別プログラム」開始 ○神栖宣言実現へ地域医療トーク&トークを開催。 ○医療DXについて、関係機関と情報共有を随時実施。
--	--

イ 事項2：エンディングノートの活用促進について（説明／嶋林課長補佐）

- 長寿介護課において、市独自のエンディングノートを新たに作成した。
- 家族や身近な人と自身の意向を話し合うきっかけづくりにしてもらえよう市民に周知を行っていくので、関係機関のご協力をお願いしたい。

（2）意見交換

ア 神栖市医療データについて

- 医療機関から、神栖市は全国と比して若年層の人口割合が高く、これから高齢化が加速していくため、ますます医療が必要な地域になるとの認識が示された。また、コロナ禍を経て、全国的な診療控えにより患者が減少する中で、神栖市の死亡率の減少を目指して医療機関がディスカッションしていく場がほしいとの意見が出された。
- 資料に関する質問事項等について
 - P5・・・主な死因と死亡比
 - 胃がんでは女性に高く、大腸がんでは男性に高い理由は何か。

回答（健康増進課）

標準化死亡比は「令和6年茨城県市町村別健康指標」（令和6年8月茨城県）で公表されており、茨城県、各保健医療圏・市町村の死亡率が「全国平均死亡率の何倍であるか」を示した数値です。性別ごとに全国比を算出していますので、男女の標準化死亡比を比較して、どちらの死亡率が高いかを評価するものではありません（会議資料では男女の数値を並べて表示したため、比較するような表現であったこととお詫びします）。

この市町村別健康指標では、疾患ごとに標準化死亡比の信頼性が示されています。それによると、神栖市においては、男性では「大腸がん」の死亡率が、女性では「胃がん」による死亡率が全国と比べて間違いなく高い

（統計学的に「有意に高い」という）とされています。この傾向は、鹿行保健医療圏や茨城県全体においても同様です。

なお、全国に比してこれらの死亡率が高い理由については、市町村別健康指標を所管する茨城県健康推進課においても分析していないとのことです。当市においても明確な理由は不明ですが、市民の令和5年度国保特定健診受診者の結果では、男女ともに喫煙率が県平均より高いことや、飲酒される方の飲酒量も多く、運動習慣のない方が多いことがあります。また、健診の有所見者では、男女共にBMI、腹囲、HbA1C、中性脂肪、HDL-C、尿酸値、血清クレアチニンの標準化比の数値が高く、HDL-Cと血清クレアチニン以外の項目では40才から64才までの方が65才から74才の方より高くなっており、また、拡張期血圧も高いことから、生活習慣病が関連している可能性が高いと推測されます。

一方で、これらのがんの死亡率を下げるためには、がん検診が有効でありますので、今後も受診促進に努めてまいります。

P 1 5 ・ ・ 外来患者数の将来推計

初診患者の将来推計をお願いしたい。

回答（地域医療推進課）

市では、市民の国保・後期高齢医療レセプトデータを基に市人口相当の外来患者数を推計しています。このレセプトデータには、初診患者への診療行為を示す項目が含まれておりませんので、データ提供元である国保連合会および後期高齢者医療広域連合会にこれらの項目の抽出が可能かを確認したうえで、初診患者数の推計方法を検討してまいります。

P 1 6 ・ ・ 1日当たりの外来患者数

呼吸器系疾患の人数が減少していく理由は何か。

回答（地域医療推進課）

2023年度における市内の呼吸器系疾患の外来患者数の年齢別割合を見ると、0歳～14歳が45.5%、15歳～64歳が43.9%、65歳以上が10.7%となっています。

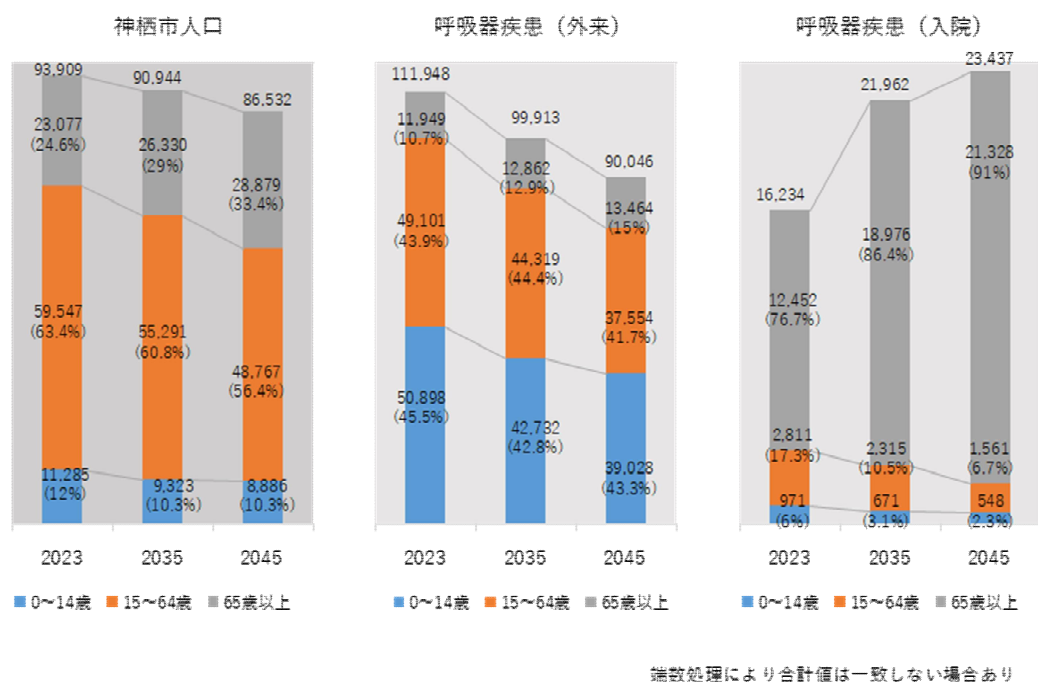
将来の人口推計においては、0歳～14歳、15歳～64歳の若年及び生産年齢層の人口減少が見込まれており、したがって、この層の2045年度の外来患者数は2023年度と比較して△23,417人の減少と推計されます。

一方で、65歳以上の高齢者人口は増加傾向であることから、それに伴い

高齢者層の外来患者数は1,515人の増加と見込まれます。

このように、若年及び生産年齢層の患者数減少が高齢者層の患者数の増加を上回ることから、呼吸器疾患全体としては2045年度外来患者推計数は△21,902人の減少と見込まれるところです。

なお、入院患者数については、2023年度の年齢別割合では高齢者層が全体の76.7%を占めており、今後の高齢化の進展により、入院患者数は増加していくと推定されています。



イ 二次救急病院について

○神栖済生会病院から、看護師不足にありながらも、昨年と同様に年間2,000台以上の救急車の受入を目指して取り組んでいる状況が共有された。また、16人の新人看護師が入職したことにより、今年の秋までに段階的に稼働病床数を増やし、急性期患者の受入を推進していく計画であることが示された。

○白十字総合病院から、昨年11月の新病棟オープンについて、県・市・関係機関等の支援に感謝が述べられ、今後は高齢者救急の受入体制の構築にも取り組んでいく方針であることが示された。また、同院から、急性期医療を守ることが最重要課題に掲げて奔走しつつも、医師確保に難渋している状況が報告された。

ウ 救急医療について

○消防本部から、病院収容平均所要時間が再び延長傾向であることを踏まえ、地域でのファーストタッチが難しい疾患への対応が課題であるとの認識が示された。さらに、前回の救急医療ワーキングチーム会議で合意した、消化管出血や開放骨折の受入検討を行う専門部会に期待したいとの意見が出された。また、

診療所からは、二次救急病院における負担軽減を図るため、軽症患者の搬送を積極的に受け入れていきたいとの意向が示された。

- 皮膚科診療所から、新たに着任した白十字総合病院の皮膚科医と連携して、熱傷・薬傷の軽症患者の受入に努めていきたいとの意向が示された。

エ 小児診療体制について

- 神栖済生会病院から、小児救急受入要請の対応状況が共有された。また、小児診療所から、当番医と連携して日曜日の診察に協力している状況が紹介された。

オ 健康診断について

- 市から、がん検診の無償化など受診促進に向けた取組みが紹介された。各医療機関からは、市の取組みの一層の推進についての期待が述べられるとともに、市民が健康診断を受けやすくなる体制づくりとして、集団健診における受入人数枠や受診できる医療機関数を拡大することなどの提案がなされた。「神栖市の住民の中にはがんの進行度が非常に進んでから受診する人が多い印象がある、そのため、がん検診の積極的な勧奨が望まれる」との指摘もあり、胃がん検診の内容の見直しや、受診勧奨や啓発活動を強化することについても意見があった。特に、消化器内視鏡専門医を活用した胃がん内視鏡検診については、市から今後検討していく旨の回答があった。

回答（健康増進課）

特定健診の受診率向上につきましては、市内の契約医療機関において特定健診の実施に御協力いただいております。

当市では総合健診にて41歳、46歳、51歳の希望者に胃がん検診と胃リスク検診を実施しており、ピロリ菌や萎縮性胃炎の早期発見に努めております。胃内視鏡検査のがん検診の基準としまして、複数の医師の読影が必要であることから、今後は検査の実施体制について御意見や御協力をいただき、受け入れ数なども調査したうえで実施に向けて検討してまいります。

カ 外国人患者の受入れ促進について

- 診療所から、県が提供している「多言語遠隔通訳サービス」の市内における利用状況や使い勝手などの情報提供について依頼があった。

キ 在宅医療、ACP（人生会議）について

- 診療所から、今後ますます在宅医療が重要になることを踏まえ、在宅医療ワーキングチーム会議の再開に期待しているとの要望があった。

○市から、ＡＣＰの普及啓発に向け、エンディングノートの配布について関係機関に協力依頼がなされた。医療機関からは、市民にエンディングノートを十分にＰＲしてほしいとの要望や、企業の協力により定年退職者に配布するなどの工夫についてアドバイスがあった。

ク 人材確保について

○歯科衛生士の確保に苦慮している現状を踏まえ、歯科医師会から、今年度の神栖市看護職合同進学・就職相談会への参加・出展を検討している旨の報告があった。

ケ その他について

○眼科診療所から、流行性角結膜炎が小児に流行している現状とそれが神栖市固有の状況であることが共有されるとともに、保護者が子の看護休暇を所得しやすくなるよう、行政から事業所へ当該疾患に関する情報提供を行ってはどうかとの提案がなされた。また、眼科診療所と小児診療所で症状や診断についての情報交換がなされた。

○ＤＸへの対応に関する質問に対して、市から、国の動向を把握しつつ医療機関における業務効率化などを支援していく方針であり、今年度は救急病院におけるＤＸを活用した看護師確保の取組み等を支援メニューに追加したとの説明がなされた。

閉会に当たり、永井座長から出席者に「関係機関それぞれが持てる力を発揮して、今後も地域住民のために医療を提供していただきたい」とエールが送られた。

以上

令和7年度 神栖市地域医療体制に係る意見交換会 出席者名簿

令和7年6月4日（水） 19時～ 301会議室

○出席者

（順不同、敬称略）

No	所属等名	役職名	氏名	会場	WEB
1	茨城県立中央病院	名誉院長	永井 秀雄	●	
2	鹿島医師会神栖支部	支部長（野口医院院長）	野口 英一	／	
3	神栖市歯科医師会	会長（新扇歯科医院副院長）	鈴木 伸之	●	
4	白十字総合病院	院長	鈴木 善作	●	
5	神栖済生会病院	院長	金沢 義一	●	
6	鹿嶋ハートクリニック	理事長	黄 恬瑩	／	
7	いきすの森クリニック	副院長	石橋 美生	●	
8	かしまなだ診療所	理事長	五木田 道明	●	
9	かしまなだ診療所	院長	林 俊治		●
10	かみす消化器内視鏡クリニック	院長	坂田 義則	●	
11	神栖メディカルクリニック	院長	長島 英一	●	
12	小沢眼科神栖診療所	院長	戸田 和重	●	
13	五郎台ファミリークリニック	院長	門脇 利明	／	
14	済生会土合クリニック	所長	田中 久巳彦	●	
15	しょうのこどもクリニック	院長	庄野 哲夫	●	
16	すずきクリニック	院長	鈴木 洋輝	●	
17	東部地区健康管理クリニック	管理医	本田 克也	●	
18	永木外科胃腸科医院	院長	永木 弘和	●	
19	皮フ科内科クリヤマクリニック	院長	栗山 源慎	●	
20	宝山ハートクリニック	院長	出口 亮	●	
21	武藤小児科医院	院長	武藤 隆雄	●	
22	神栖産業医トレーニングセンター	統括指導医	田中 完	●	
23	鹿島地方事務組合消防本部	消防長	武藤 隆	●	
24	鹿島地方事務組合消防本部	メディカルアドバイザー	鶴岡 信		●
				19	2

○随行者

No	所属等名	役職名	氏名	会場	WEB
1	白十字総合病院	事務部長	礪部 晃彦	●	
2	神栖済生会病院	副院長兼事務部長	田村 照悟	●	
3	神栖済生会病院	事務次長	江寺 隆広	／	
4	鹿嶋ハートクリニック	事務長	生長 賢二	／	
5	鹿嶋ハートクリニック	事業推進課長	高宮 柳弘	●	
6	かしまなだ診療所	事務長	五木田 みか	●	
7	神栖メディカルクリニック	経営企画室長 副院長	長島 雄次	●	
8	小沢眼科神栖診療所	事務長	渡邊 隆光	●	
9	東部地区健康管理クリニック		勝西	●	
10	鹿島地方事務組合消防本部	救急救助課長	岩瀬 伸一	●	
				8	0

○神栖市

No	所属等名	役職名	氏名	会場	WEB
1	神栖市	市長	石田 進	●	
2	神栖市	市長公室長	岡野 雅文	●	
3	神栖市	福祉部長	浅野 明海	●	
4	神栖市	健康増進部長	野口 正美	●	
5	神栖市	医療対策監	藤枝 昭司	●	
6	地域医療推進課	課長	吉川 徹	●	
7	地域医療推進課	課長補佐	徳永 真砂美	●	
8	地域医療推進課	主査	山澤 翼	●	
9	地域医療推進課	係長	増田 麻帆	●	
10	地域医療推進課	主幹	荒沼 史昭	●	
11	地域医療推進課	主幹	胡田 大介		●
12	地域医療推進課	主事	平山 聡	●	
13	長寿介護課	課長補佐	嶋林 優子	●	
				12	1